

夢を叶えるために

ある企業の調査結果ですが、子供たちのなりたい職業ランキング調査（2023年小3～小6約18000人）の結果です。4年連続で「ユーチューバー」が1位になりました。また、「学校の先生」「医師」など、時代を超えて人気の職業も挙がる一方で、親世代には馴染みの薄い職業もランクインし、時代の変化が職業観に反映されることを伺える結果となりました。AIの進化やビッグデータの技術の進展により、今ある職業も消えていく可能性があるかもしれません。また、子供たちの世代は生まれた時からずっと日本は不景気で、国際社会における日本の地位は低迷し続け、先行きが見通しにくい社会ともいえます。この影響からか、「お金持ちになりたい」と答える子供の割合は、年々高まる傾向にあるそうです。不安を抱えている世代だからこそ、安心材料の一つである「収入」を重視しているのかもしれません。

順位	小学生職業ランキング	票数
1	ユーチューバー	1635票
2	芸能人	1595票
3	漫画家・イラストレーター等	1414票
4	パティシエ・パティシエール	939票
5	保育士・幼稚園の先生	625票
6	学校の先生	619票
7	医師	448票
8	作家・小説家等	413票
9	動物園・水族館の飼育員	413票
10	ゲームクリエイター	406票

しかし、「社会のためになることをしたい」と考える子供が増えているという結果には少し安堵感を覚えます。震災やコロナ禍を経験したことで、利他的な価値観が高まっているといわれています。これは、日本だけでなく世界で見られる特徴だそうです。会社選びに関しても、これまでは知名度などを重視しがちだったのに対して「社会にとって良いことをしている会社に行きたい」という視点が高まっています。

これから、変化の激しい社会の中では、これまでのように将来から逆算して進路を考えるのにも限界があります。これから益々大切になっていくのは、変化に対応できる柔軟さです。だからこそ、様々な経験値を積み重ねて、選択肢を増やす「末広がり型」で進路を考えていくことが、未来を考えるには効果的だと考えます。

ただ未来を語ることでなく、過去から現在の自分の材料を集めて、未来の自分を作っていくイメージです。そこで、普段の子供との会話の中で、「やりたいこと」や「楽しみ」を引き出し、主体的に目標を考えさせるきっかけづくりを行ってみてはいかがでしょうか。「挑戦してみたいことは何?」「あなたの得意なことを生かすには?」など、子供が前向きになれることを一緒に考えると、子供も自然と前向きな気持ちになります。目標が決まると、そこに具体的な行動目標である「めあて」を立てさせて実践すると、小さな成功体験を得ることができるようのです。これらの小さな経験を積みかさねて得られる「わくわく」感、将来への夢実現へとつながっていきます。

KABの取材

今日は、次年度に新しいタブレットの導入を控えているため、これまでのタブレットとお別れの日となりました。各担任がタブレットの中身をリセットするために、子供たちと共に作業をしました。その様子(3年1組)をKABの取材班が撮影しました。今日の夕方、KAB「タッチ」の中で放映されます。(18:15～)

